

除雪ボランティアフル回転

楯岡高の運動部員、土曜に活動

「喜ぶお年寄りを見たい」

地域住民の喜ぶ顔が見たい。5年ぶりに豪雪対策本部が設置された村山市だが、楯岡高(鈴木剛一校長、590人)の運動部を中心とした生徒たちが高齢者世帯の除雪ボランティアに取り組んでいる。除雪の依頼は例年になく多く、毎週土曜日にフル回転で活動している。

除雪ボランティアは、2007年12月に野球部員たちが「地域の役に立ちたい」と学校に提案し、学校近くの世帯を対象にスタート。09年度からは市社会福祉協議会が民生委員を通して高齢者世帯などにチラシを配り、除雪で困っている人の依頼が同協議会から届く形となった。同年度から、地域住民と関わることでボランティア精神や社会力を育むと、同高の地域ボランティア活動「ちよボラ」

ちよびつとボランティアの一環として作業を行っている。昨シーズンの依頼はわずかだったが、今年は大雪のため週に10件前後舞い込む。作業する土曜日は、野球部員がほ

大雪で例年のない依頼



高齢者世帯などを訪れ、玄関周りの除雪を行う楯岡高の生徒
＝村山市楯岡大沢川

かの部の生徒に呼び掛け、12年生が20〜30人集まる。3、4人で班をつくり、高齢者宅の玄関周りなどの除雪に当たっている。

22日は、生徒たちがおそろいの青いジャンパーを着て、班ごとにスノーダンブとスコップを持って高齢者の家に向かった。楯岡大沢川の

藤橋嘉一郎さん(73)方には野球部の1年遠藤佑作君(16)、元木聡君(15)、弓道の1年石川健斗君(16)、海藤淳太君(16)の4人が訪問。地域の民生委員から除雪場所の指示を受けながら、藤橋さん方の玄関から道路までの通路の除雪を丁寧に行った。
藤橋さんは「妻と2人で雪掃きするのは大変。生徒たちが来てくれると本当に助かる。地域住民を助けてくれる生徒たちがとても頼もしい」と感謝。遠藤君は「毎週のことですらと思うこともあるが『ありがとう』と言われると励みになる。今後も頑張りたい」と話していた。
2月末まで依頼を受け付けている。